

けせん医報



目次

●巻頭言	気仙医師会 副会長 岩渕内科医院 院長 岩 渕 正 之… 2
●理事会報告	■令和 2 年度第 6 回理事会報告…………… 3
●隨 想	「スケルツォ」 岩手県立大船渡病院 小児科 科長 大 津 修… 9
●各科のトピックス 「急性期脳梗塞について」	岩手県立大船渡病院 脳神経外科 リハビリテーション科長 鈴 木 太 郎… 10
●医院紹介 陸前高田市国民健康保険二又診療所	所長 鈴 木 高… 11
●氣仙医師会学術講演会（気仙地区糖尿病研究会2021）	■令和 2 年度糖尿病性腎症疾病管理強化対策事業 特別講演「糖尿病腎症による透析患者を減らすために」 岩手医科大学医学部 内科学講座 糖尿病・代謝・ 内分泌内科分野 教授 石 垣 泰 先生 ディスカッション「糖尿病性腎症の患者さんを 介した連携を考える」 岩手県立大船渡病院 糖尿病内科医師 千 葉 拓先生… 12
●計 報	… 13
●会員の退会お知らせ	… 14
●事務局日記	… 15
●編集後記	… 16
●表紙のことば	… 16



第157号
2021. 4. 30

気仙医師会
岩手県大船渡市盛町字内ノ目 6-1
TEL:0192-27-7727 FAX:0192-26-2429
<http://kesen-med.or.jp/>

卷頭言



気仙医師会 副会長
岩渕内科医院 院長

岩渕正之

私の友人に望月崇英（もちづき しゅんえい）という者がおりました。

彼は僧侶ですが少し変わった経歴を持っていました。

20代でニューヨークに移住し、ミュージシャンとして活躍しておりましたが、20年の後安定した生活を捨てて突然帰国したのです。

40代にして高野山に入山、厳しい修行に耐え、正式に高野山真言宗の僧侶として認められたのです。

以降2010年より東京の銀座四丁目で托鉢をしておりました。

2016年1月、友人の紹介で知り合いとなり、以降親交が続きました。

東日本大震災直後より被災地に入り、毎年沿岸部を廻って祈りを捧げていただきました。

望月さんとの問答「貴方はどのような存在になりたいのですか？」という私の問いに「空」と彼は答えました。問い合わせられた私は咄嗟に「海」と答えました。

「私は空、岩渕さんは海、つまり空海です。私が高野山に入った時の師、空海です。私は亡くなられた方々を慰靈します。岩渕さんには遺された方々を宜しくお願ひします。我らは死ぬまでこれを続けましょう。」

2021年1月18日、突然の訃報が入りました。

望月さんが新型コロナに感染、入院した次の日に亡くなられました。

享年66歳、合併症はありませんでしたがECMOによる治療も及びませんでした。

私は彼の意思を継ぎ、被災地での治療を続けたいと思います。

隨 想



「スケルツォ」

岩手県立大船渡病院 小児科

科長 大津 修

震災から10年たった。世の中は新型コロナに影響され続けている。復興は途上なのか行き詰りなのか、理想とは乖離していると感じる。新型コロナについては、誰を責めるわけでもないが、医療も社会も、想定外の事態に後手後手で右往左往の体である。中途半端復興×コロナ。世相を表現するならば閉塞感か不透明感か。長距離移動や対面活動が制限されることへの不安や不満は、如何に人間のコミュニケーションが移動と対面に支配されてきたかの裏返しである。人々の移動交流の衰退により復興は道半ばで停滞しかねない。

コロナの感染拡大により、家族のいる盛岡への移動の機会は激減し、休日であっても大船渡の自室にこもる日が多くなっている。秋の某日、CD棚の整理をしていたら、「ベートーヴェンのスケルツォ」というCDをみつけた。ベートーヴェンの交響曲や弦楽四重奏曲のスケルツォ楽章を集めたアルバムである。1990年代に発売されていて、演奏はほぼカラヤン・ベルリンフィル、編集はジブリ作品で有名な高畠勲が担当している。学生時代か医師になって間もなくの頃に購入したとおもわれる。お堅いファンには小馬鹿にされそうな都合の良いコンピレーションアルバムだが、久々に聴きとても愉快な気分になった。

「スケルツォ」とは、クラシック音楽において楽曲の区分に使用される名称で、イタリア語の「冗談」に起源する。主に古典派以降の交響曲などの楽章形式の作品で、多くは3楽章（2楽章の場合もあり）などの中間楽章におかれ。1楽章が曲を規定するテーマの提示、終楽章が結論であり集大成であるのに比べれば、中間楽章のスケルツォは決して主役ではない。しかしながら冗談という語源の軽さの割には確固たる特徴を兼ね備え、曲想は拍の強調により舞踏的性質を帯び、時として感情表現の激化などに発展する。その楽章だけ取り出して聴いても全く飽きない。どこか冷めていて、でもしっかりととした意思表示があり存在感がある。魅力的なスケルツォを持つ交響曲は骨太の名曲が多い。

今、指標はスケルツォなのかもしれない。スケルツォには決して閉塞感や不透明感を打破する救世主的な格好いいイメージはないが、我々が前進するために必要な振る舞いのテーゼを示してくれる。現状を嘆き立ち止まるのではなく、自身の存在位置や周囲の状況を再確認かつ再構成しつつ、自分自身を磨き力強く踊る如く快活に進むことで、骨太なクライマックスを迎えることが可能になるのではないか。人間は、特に医療に携わる者は、終生にわたり成長し続けるべきものだから。

誰もが今の状況が一過性であることを願っている。だからこそ、今の振る舞いが次のステップに繋がるよう。しっかりと。魅力的なスケルツォの如く。（2021年春）

各科のトピックス

「急性期脳梗塞について」

岩手県立大船渡病院 脳神経外科

リハビリテーション科長 鈴木 太郎

脳梗塞は世界中において死因や要介護の原因となる主要な疾患であり、とりわけ心原性脳塞栓症は転帰不良となることが多い病態です。超急性期の心原性脳塞栓症に対する治療として、アルテプラーゼ(recombinant tissue-type plasminogen activator: rt-PA)静注療法と血栓回収療法の有効性が確立されており、複数の試験により転帰改善効果が証明されるようになりました。今回はこれらの治療について言及したいと思います。上記のうちrt-PA静注療法は発症から4.5時間以内に治療可能な脳梗塞例に対して行うことが強く推奨されており、発症後4.5時間以内であっても治療開始が早いほど良好な転帰が期待できます。これまでには、発症時刻が不明な場合は最終健常確認時刻をもって発症時刻とするとされており、就寝中に起こった脳梗塞例では治療を行うことがほぼ不可能でした。最新の脳卒中ガイドラインでは、発症時刻が不明な場合でも、頭部MRIでの拡散強調画像(DWI)の虚血性変化がFLAIR画像で明瞭でない場合には発症4.5時間以内の可能性が高く、このような症例に静注血栓溶解療法を行うことを考慮しても良いとされています。ただし、内頸動脈、中大脳動脈近位部、脳底動脈、椎骨動脈といった太い血管の閉塞では30%ほどしか効果がないとも言われており、この場合は後述の血栓回収療法に分があります。

前方循環系の脳主幹動脈(内頸動脈、中大脳動脈近位部)の、発症から6時間以内の急性閉塞による脳梗塞に対して、血栓回収療法とrt-PA静注療法を含む内科治療を比較する試験が海外で行われ、全ての試験において血栓回収療法は発症90日後の転帰改善効果を示しました。前述の通り太い血管が閉塞した場合はrt-PA静注療法のみでは効果は乏しいのですが、血栓回収療法を加えることで社会復帰率が14%、自宅復帰率が20%増加したという報告があり、一定の効果が見込める治療です。このように急性期の脳塞栓症治療は時間との戦いであり、「治療が3分遅れるごとに歩ける患者さんが1%減る」「治療が30分遅れると死亡率が20%増加する」など、様々な報告がなされています。

一方、最終未発症確認時刻から6時間以降の症例についても、神経徵候と画像診断にもとづいて対象を選択する(前述のようにDWIの虚血性変化がFLAIRで明らかではない症例など)ことで血栓回収療法は有効であるとする試験結果が相次いで発表され、「時間だけで適応を決めてきた時代」から、「画像をもとに適応を判断する時代」となりました。神戸の某有名病院では治療介入に関して「時間無制限」を公言しており、我々も初動が患者さんの予後を分けるという認識で日々診療にあたっております。

なお、当院では以前から、脳卒中疑い例に対しては救急隊から脳神経外科当番医へ直接連絡が入るホットライン制を敷いております。救急隊の方々へはコール基準をお伝えしていますが、特に(1)共同偏視がある、(2)片麻痺かつ従命動作ができない、のいずれかを認めた場合は前述の脳主幹動脈閉塞を来している可能性が高いとされております。開業の先生方におかれましては、このような症状を呈する患者さんが直接先生方の病院を受診されることは少ないと考えられますが、訪問診療で同様の症状の患者さんを見つけた場合、あるいはご家族から問い合わせのお電話が入り前述の症状を認めた場合などは、救急要請のうえ当院を早急に受診して頂くようご指示頂きたく存じます(最終未発症時刻も併せてご確認頂けますと幸甚です)。

2021年も微力ながら気仙地区の脳卒中診療に尽力したいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

医院紹介

☆☆



陸前高田市国民健康保険二又診療所

所長 鈴木 高

国民健康保険二又診療所は、陸前高田市の市街地から国道343号線を西へ10kmほど行った山あいの矢作町内にあります。僻地の小さな診療所で、常勤医師1名（令和3年3月まで非常勤医師1名）、看護師3名、事務職員3名、送迎バスの運転手1名で細々と診療を行っています。診療所の設備は小さいながらもなかなか充実しています。大きな装置としてはX線撮影装置、心電計、超音波検査機器などがあり、この規模の診療所としては十分です。また、院内で測定できる血液検査項目も豊富です。血算・CRP、尿検査はもちろん、糖尿病患者のフォローで必要な血糖値やHbA1c、ワルファリン服用患者用のPT-INRなども院内ですぐに測定できます。その他にも、心筋梗塞のときのトロポニン検査、血栓・塞栓症の診断に役に立つD-ダイマーなども測定できます。インフルエンザや溶連菌感染症の迅速検査も可能です。これらのものは前任者の石木先生が揃えられたもので、日常の診療に際して大変役立っています。石木先生には令和3年3月まで火曜日の診療をお願いしていましたが、4月から広田診療所の方に移されることとなり4月からは石木先生の診療はなくなります。

この矢作地区は全国の山村と同様に高齢化と人口減少がみられ、外来患者の平均年齢はおそらく80歳前後と思われます。外来診療は内科的な慢性疾患の管理が主なものとなっています。簡単な外科的処置は行っていますが、整形外科的な処置（関節内注射など）はしておりません。整形外科的治療器具としてスーパー・ライザーがあり、近赤外線による光線照射療法を各種疾患の疼痛治療に利用しています。石木先生が行っていた禁煙外来と認知症外来については、禁煙外来は継続するつもりでいます。しかし、認知症外来については専門外のことなので継続は難しいと思われます。

私が二又診療所に赴任したのは令和2年4月で、ちょうどクルーズ船ダイアモンドプリンセス号の新型コロナウイルス感染症の集団感染が何とか落ち着き始めた時期でした。しかし、ここから新型コロナウイルスの感染が日本全国へ拡大して現在大変なこととなっています。初めの頃は岩手県ではPCR陽性者が長らく認められず、コロナ禍の嵐の中で無風状態を保っていました。特に陸前高田市は今年の2月まで一人のPCR陽性者も出していました。二又診療所近辺は比較的に安全と考えられていたと思います。しかしながら、当院でもコロナ対策は去年の緊急事態宣言の頃から十分に行ってきました。発熱患者やコロナ感染が少しでも疑われるような患者には不便をおかけすることになりますが、駐車場での車内待機としていただいて診療を行っています。出来るだけ職員との接触を減らすために携帯電話やiPadなどをを利用してリモートでの対応も可能になります。診察も十分にできずに投薬のみとなる場合もあるので、自宅での経過観察用に貸し出し用のパルスオキシメーター（血液中のヘモグロビン酸素飽和度を測定する器具）も用意しています。

これから新年度に入ると、いよいよコロナウイルス感染症に対するワクチン接種が始まります。高齢者に対するワクチン接種開始の時期は政府発表の予定よりは大分遅れると思われます。二又診療所でも通院患者及び矢作地区の高齢者のワクチン接種を行う予定です。但し、ワクチンが陸前高田市にいつ届くのか分からないので開始時期は未定です。おそらくは、5月以降になると思います。今年はこのワクチン接種が無事に終了できるように職員一同努力していきたいと考えております。

気仙医師会学術講演会

気仙地区糖尿病研究会2021

■令和2年度糖尿病性腎症疾病管理強化対策事業

特別講演 「糖尿病腎症による透析患者を減らすために」

岩手医科大学医学部 内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野

教授 石垣泰先生

デスカッション 「糖尿病性腎症の患者さんを介した連携を考える」

岩手県立大船渡病院 糖尿病内科 医師 千葉拓先生



令和3年3月3日（水）午後7時から、気仙糖尿病講演会2021が大船渡プラザホテルからの配信により、オンラインで開催されました。

本事業は、岩手県からの委託事業で、糖尿病が重症化するリスクが高いことから未受診者や新たな受診者、受診中断者について、関係機関等からの適切な受診勧奨、保健指導を行うことにより治療に結びつけることと、糖尿病専門医以外の医療機関にも糖尿病患者の早期発見に協力いただき、重症化が懸念される患者については専門医に紹介するとともに、糖尿病性腎症等で通院する患者のうち、重症化するリスクの高い患者に対して主治医の判断により保健指導対象者を選定し、関係機関等と連携し腎不全、人工透析への移行を防止することを目的に実施したものです。

当日は、岩手県立大船渡病院副院長の久戸良徳彦先生が座長を務められ、講師は、岩手医科大学医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野教授の石垣泰先生に「糖尿病腎症による透析患者を減らすために」と題して講演をいただきました。

その後、岩手県立大船渡病院糖尿病内科医師の千葉拓先生から「糖尿病性腎症の患者さんを介した連携を考える」と題して、アンケート調査結果が紹介され、視聴されている先生方を交え、それをもとにしたデスカッションが行われました。

最後に、糖尿病患者及びその予備軍を一人でも多く見つけるため、講演会の開催や行政等との連携とともに、協力いただける医師の拡大を図り、糖尿病性腎症疾病管理の強化を更に推進していくことが必要であることが改めて認識された。

結びに、気仙医師会副会長の岩渕正之先生からお礼のあいさつがあり講演会を終了した。



— 訃報 —

— 謹んでお悔やみ申しあげます —



きかわだ のり や
木川田 典彌 先生

令和3年2月27日ご逝去（満84歳）

学歴

昭和11年10月19日生まれ
昭和30年3月 東京都立雪谷高等学校 卒業
昭和32年3月 東邦大学薬学部 卒業
昭和36年3月 岩手医科大学医学専門学部 卒業
昭和37年3月 岩手医科大学附属病院 インターン修了

職歴

昭和41年4月 岩手医科大学歯学部第一生理学教室 副手
昭和43年9月 岩手県立大船渡病院 勤務
平成2年6月 地ノ森クリニック 所長
平成2年7月 医療法人勝久会 理事長
平成26年6月 公益社団法人 全国老人保健施設協会 会長

主な表彰歴

平成14年10月 全国老人保健施設協会会长表彰 受賞
平成15年9月 全国更生保護法人連盟表彰 受賞
平成21年7月 厚生労働大臣表彰（介護老人保健施設事業功労）受賞
平成21年9月 法務大臣表彰 受賞
平成29年5月 全国就労支援事業者機構会長表彰 受賞
平成30年7月 岩手県医師会総会表彰（地域医療功労）受賞
平成30年8月 紺綬褒章 受章

自宅 〒022-0002 大船渡市大船渡町字山馬越190番地

● 会員の異動・退会・入会のお知らせ

退会会員

ご協力ありがとうございました。

- 小笠原 敏 浩 先生（岩手県立大船渡病院）
天野 史子 先生（岩手県立大船渡病院）
岩井 直路 先生（陸前高田市国民健康保険広田診療所）
深澤 信博 先生（（社法）恩賜財団済生会済生会陸前高田診療所）
及川 健人 先生（岩手県立大船渡病院）
佐藤 慎 先生（岩手県立大船渡病院）
富澤 優太 先生（岩手県立大船渡病院）

退会年月日 令和3年3月31日

異動会員

引き続きよろしくお願ひいたします。

石木 幹人 先生

陸前高田市保健福祉総合センター所長

⇒陸前高田市国民健康保険広田診療所長

異動年月日 令和3年4月1日

新入会員

ご歓迎申しあげます。

- 安藤 李華（あんどう ももか）先生
遠藤 泉（えんどう いずみ）先生
鎌田 大地（かまだ だいち）先生
佐々木 拓渡（ささき たくと）先生
竹内 孝太（たけうち こうた）先生
百川 齊（ももかわ ひとし）先生
山野目 駿人（やまのめ はやと）先生

入会年月日 令和3年4月1日